

映画上映会・ティーチイン

(カナダ大使館協力)

日時：2010年2月10日(水) 14:50~17:00

場所：東京外国語大学 研究講義棟 1階 109教室
(中央線武蔵境駅乗り換え 西武多摩川線多磨駅下車徒歩4分)

入場無料 事前登録不要

監督フィリップ・バイロック 来日

「火と水」(カナダ映画 2008年)
世界貿易センターのテロ事件で息子を亡くした故、暴力の連鎖を断ち切ろうとアフガニスタンの人々を
手伝う決心をした日本人の父親の姿を追った作品。

監督の挨拶後、映画上映(約82分)、最後に質疑応答の時間を設けてあります。

司会兼コメント等：八尾師誠 氏 (東京外国語大学教授)

主催：科学研究費補助金「グローバル化状況における国民間国民的「想起の文化」の総合的研究」
共催：海外事情研究所



監督

フィリップ・バイロック

制作

ナタリ・パルトン

イーヴ・ビザーヨン

パトリシア・ベルジェロン

世界が平和になつてはじめて
心が安らぐのであろうか。



火と水

2001年9月、東京のレストラン経営者白鳥晴弘さんは、アメリカンドリームを実現するために自分のもとを離れていった息子敦の死を知らされた。9月11日の朝、世界貿易センター高層ビルの104階で仕事をしていた敦さんはその日を境に帰らぬ人となってしまった。

「息子の敦は、多少反抗的ながらも優秀な青年でした。東京の高校が崩壊だと感じた息子に対して、私は世界を見てまわるようにと、動きました。

カリフォルニアで学んだ後、ビッグなことをやろうという思いで、息子はニューヨークへとやってきました。

大規模な金融企業において、彼はめざましいスピード昇進を成し遂げました。顧客に対し野心的、友人に対しては寛容だった息子は、10年で国際色豊かな「ニューヨーカー」となったのです。

息子が亡くなった日、私自身の人生がこれほどまで変わってしまったことを、とても予想できませんでした。」(白鳥晴弘)

白鳥晴弘さんは、一人息子の遺徳を偲ぼうと、燃えたる憎しみを心の奥底にしまい込んでまでその死に意義を与えることにした。そして思い切った賭けに出た。それは…同じ様な事件が2度と起こらないようにと、手品という驚くべき手段を持って、アフガニスタン民族と接することであった。日本人もアフガニスタン人もアメリカ人も、そして子供も大人も皆、優雅な仕草でスカーフを消滅させる白鳥さんの手品にうっとりした眼差しを向ける。白鳥さんの手品は、まるで銃口に花を咲かせる21世紀のドンキホーテの様でもあり、言葉を越えた、心と心を結ぶ隠し技の様でもある。

2003年、初のアフガニスタン旅行の際、白鳥さんはカブールの残骸を見て自分の使命に気付く。それは、首都カブール市内にある丘の上に、一人息子の遺徳を偲ぶ記念公園を建てることであった。日本の最も優れた建築家の1人、黒川紀章が練り上げた構想は、学校や給水塔、911本の桜を植えた庭園を含むまさに夢の様な交流の場である。戦禍を生きる現在のアフガニスタンの子供達と1945年の東京大空襲の中を逃げ回った子供時代の自分を重ねながら、白鳥さんは戦争の惨事や人間の受ける惨めさを語り続ける。この白鳥さんの夢に向かって進む決意と努力には驚くべきものがある。

「火と水」は多くの障害を伴う人道的な追求の描写であり、死の彼方で、亡くなった息子と和解しようとする父親の心探しの旅の一場面である。

皆さんの心の中にはこの映画がどのような一場面として残るのであろうか。

火と水

世界貿易センターのテロ事件で息子を亡くした故、暴力の連鎖を断ち切ろうとアフガニスタンの人々を手伝うことにする日本の父親の追求。

2008年 81分35秒

バイロック・フィリップ監督



バイロック・フィリップ監督

1958年生まれ。ロンドンの Hornsey College 及び St-Martin's School of Arts で彫刻や映画学を勉強した後、自主映画製作者になり、記録映画、劇映画、実験映画を数多く発表。諸外国で11にも及ぶ勲章を受賞した「Lodola」（「彼方」、1996年）やモントリオール国際芸術映画祭（FIFA）受賞映画の「Mystère B.」（「謎のBさん」、1998年）など、

バイロック監督の作品は国内外で数多く受賞しており、「Les couleurs du sang」（「色々な血の色」、2000年）と「Sables émouvants」（「心を動かす流砂」、2003年）のように多くの映画祭に選抜された作品もある。また「Hugo et le dragon」（「ユゴ君と竜」、2001年）はミュージカル映画で、文字通りに世界一周をしたおとぎ話である。数年もかかった「火と水」の撮影をしながら、バイロック監督は「Un cri au bonheur」（「幸せへの叫び」、2007年）という共同作品の統括を勤めた。映画界に積極的に参加するかわら、2005年からモントリオール国際記録映画祭の委員長を勤めている。

調査・脚本・監督 Philippe Baylaucq
撮影 Philippe Lavalette, Philippe Baylaucq, Dominic Morissette
音声 Richard Lavoie
編集 Dominique Sicotte
音響編集 Benoit Dame, Patrick Rioux
作曲 Robert Marcel Lepage
制作代表 Ian Quenneville
制作 Nathalie Barton, Yves Bisailon, Patricia Bergeron
制作会社 インフォマクション InformAction
共同制作 カナダ国立映画制作庁 (NFB)

カナダテレビ基金制作提携
(カナダ政府・カナダケーブル産業創設)
CTF カナダTV番組ファンド・ライセンス料金プログラム
テレフィルム・カナダ公社 資金調達プログラム
ケベック政府・映画テレビ税額控除
SODEC ケベック文化企業発展推進公社
カナダ政府・映画ビデオ製品税額控除
ロジャース・記録映画基金
制作協力 Télé-Québec, Radio-Canada, History Television

問い合わせ

Lorne Price
メール
インターネット

+1-514-283-9461
l.price@nfb.ca
www.onf.ca

